

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	149500194	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月1日	
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語たかつ新館			
所在地	(213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18 名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成30年3月5日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とその方らしく生き生きと笑顔で安心して暮らせるよう、スタッフ皆、寄り添いの気持ちで忘れず、笑顔で楽しく勤めています。またチームワークの良い職場です。平成25年4月より入居者は毎朝、スタッフと共に館外へ散歩に出ています。入居者の外出希望が多く、身体機能の維持・向上という課題もあったことから外出支援の一環として行っています。散歩を毎日行うことで外を歩くことに対する楽しみができ、生活意欲の向上となっているほか、下半身の筋力低下を防止でき、より長距離の歩行が可能となりました。複数の行事を行っていますが特に外出行事は入居者に喜ばれ、事前に外出先の希望を伺うようにし、実際に行くことで外出に対する参加意欲も高くなっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月27日	評価機関 評価決定日	平成30年2月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南武線「久地」駅より徒歩12分、通りより少し入った多摩川沿い、近くの静かな住宅地にあります。建物は3階建てで1階は同法人の小規模多機能居宅介護施設で2階、3階が2ユニットのグループホームとなっています。この地区は通称「メデカルビレッジ」と称して各種の医療機関や老人施設などが同じ場所に建てられ、駐車場を含め広々とした環境となっています。<優れている点> 事業所の「生き生きと暮らそう」の理念のもと、毎日散歩を実施し、毎月行事計画によって外出することで、利用者の意欲の向上と身体能力の維持のための具体的なサービスに取り組んでいます。「メデカルビレッジ」内の事業所として、利用者、家族に対して健康、医療面での安心と地域の安全を提供しています。事業所運営のマニュアル類が整備されており、定期的に所内研修を行っています。<工夫点> 「花守り」と称して毎週、生け花を調達し、生活の場に生けて日々の生活に潤いを与えています。川崎市の「備えるかわさき」に沿って多摩川の洪水発生時を想定した避難訓練を実施し、対応策を作成しています。月に数回行う研修会は、参加できない人も含めて研修の資料を回覧し、読後のアンケートで周知を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、入居者がその方らしく笑顔で安心して生活できるよう勤めています。また職員も楽しく仕事をするよう心がけています。	事業所の理念を「生き活きと暮らそう」とし、「生き活きとした暮らしは笑顔を呼ぶ、笑顔は生きる喜びに繋がる」を入職時研修で教えています。玄関や事務室に掲示して職員への周知・共有を図っています。月に1回以上の行事を実施しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の納涼祭や例大祭への参加をしている他、入居者が散歩中、近隣の方々と挨拶をすることにより顔なじみになります。	町内会に加入し、地域の納涼祭や神社の例大祭に参加しています。行事などではボランティアによる支援も受けています。神輿とお囃子が事業所前に来ています。「メデカルビレッジ」共催の祭りではフランクフルト、ヨーヨーの店を出し、地域の子供達に菓子を配っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と近隣の方々との挨拶や近所への買い物時に会話を通じて、認知症の方への理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容・ご意見等を、フロア会議で施設長より報告し、施設内のサービス向上に繋がるよう話し合いをし、実行しています。	入居者や入居者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て2ヶ月ごとに開催しています。会議では、例大祭や避難訓練への参加、介護サービスに対する質問などが上がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受たり、入居者の認定調査、入居人数の現状確認など、様々な面において連携を取る等して協力関係を構築しています。	区や地域包括支援センター職員に相談し、各種アドバイスを貰っています。グループホーム協議会に加入しています。区の感染症予防と食中毒予防の研修に職員が参加し、内容をフロア会議で報告して共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が拘束にあたるのかを学び、日ごろのケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開けるようにしています。また職員へは施錠が拘束にあたることも周知し、理解したうえで、行っていることも研修で伝えています。	事業所の運営規程に身体拘束の禁止を明記しています。身体拘束禁止マニュアルを定め、毎年、高齢者虐待防止と併せて身体拘束廃止の研修を行い、職員に周知徹底を図っています。「基本拘束記録シート」を準備してありますが、身体拘束および言葉による拘束のケースはありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。入居者に対する言葉遣い、態度に気をつけ、常に入居者への対応について会議や日々の申し送り等で話し合い、改善できる体制をとっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族からの契約に関する質問については、入居者やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、わかりやすく説明し理解・納得していただいでご利用を開始していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時にご家族様との意見交換を行い、ご意見・ご要望について、実現に向けた話し合いを職員間で行い、運営に反映しています。	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記しています。苦情対応マニュアルを作成し、運営規程で迅速かつ適切に対応することとなっています。外部評価の家族アンケートなどを参考に、サービスの質の向上を図ろうとしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議やリーダー会議、各委員会において、職員同士が互いに意見を出し合い、集約し実践することで、運営に反映しています。	施設長は、職員との日常会話やフロア会議などから職員の運営に関する意見や要望の把握に努めています。また、個人面談でも要望を聞きだしています。内容によっては施設長会議、エリア会議などの議題とし、実現しようとしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長が職員と面談を行い、職員の意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、職員が意欲的に就労出来る様にしている他、各種研修を行うことで自身を持って業務に当たる事が出来ています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員より職員に対し、研修参加を促すなど、研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては、新人研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上ができるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時アセスメント・ケアプランを把握し、会話を重ね、安心して過ごしていただけるようにし、入居者のご要望がある場合、可能な限り、実現できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での入居者の生活の仕方や趣味をお聞きするなどし、不安・ご要望を聞くなど、会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者が現在必要としている支援内容をアセスメントや生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内で入居者には家事に参加していただき、入居者と職員が相互に協力し合う関係が作れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に入居者の日々のご様子やご要望などを少しでも時間を作り、話をしています。行事の写真などを月一度後家族様に郵送しご家族の繋がりを大切にさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者が行ってみたい場所などは外出行事で出かけたりしています。また近所のお店やお散歩コースも馴染みの場所となっています。ご家族やお友達などの面会も大事な時間としてゆっくり過ごしていただいています。	職員は入居者の日常会話の中から行きたい場所を拾い上げ、「行事企画委員会」に繋ぎ、計画を実施するように働きかけています。家族や友人、知人の来訪を歓迎し、話しやすい環境の提供を心がけています。入居者の馴染みの場所に遠出することもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の多くが参加出来る内容の会話を行うほか、家事のお手伝いを通して、入居者同士が協力して支えあい・助け合って生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への見舞いや、退去後も退去先へ面会に行くほか、ご家族様に連絡を取り、近状報告を聞くなど、ご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の以降を聞くようにしています。その意向を職員間で話し合い、入居者が満足できるよう検討し実践しています。入居者の表現が困難な場合、表情から汲み取るよう努力しています。	職員は入居者と1対1となる入浴時などで入居者の意向を確認、把握をしています。アセスメントシートを参考にケアプラン改定時には本人や家族の意向を聞き、モニタリング、フロア会議、担当者会議で決定しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前にご本人の情報を得ているほか、アセスメント表を熟読し、これまでの生活歴を把握しています。生活上の様子は個人記録に記入し、サービス開始時から現在までの経過がわかるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の日々のご様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話し、フロア職員や施設長、医療連携看護師が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロア会議や利用者に対するモニタリングの際、入居者の個人ケアに感ずる情報を共有し、意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し、支援を行っています。	全職員で介護サービス計画書および週間サービス計画書、業務日誌、モニタリング記録、アセスメント記録を共有しています。フロア会議担当者会議で意見の交換を行い、家族の承認のもと介護計画を改定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録や申し送りに記録し、フロア会議や朝礼を通し職員間で情報共有し、介護計画の見直しが必要な際は活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者のADLの変化などにより、他サービスの利用が必要な際はカンファレンスを行い、ご本人の状態に適した対応を行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	森林公園やバラ園といった地域の施設を利用する他、近所男祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物など楽しんで生活を送る事が出来ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、連絡を取り、受診に繋げるといった連携を取り適切な医療を受けられる体制が構築されています。	隣接する病院を事業所のかかりつけ医としています。医師による隔週の往診と週2日、終日駐在の医療連携看護師による健康相談と管理により、職員も含めて安心感を持った医療体制が構築されています。必要により個別の受診も家族対応で行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。必要時はいつでも連絡が取り合え、入居者に対する適切な受診・看護に繋がれるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は入居者への面会を頻繁に行い、病院関係者やご家族とも相談しながら、早期の退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合・或いは終末期に向けた方針については入所前の段階でご家族に説明し、了承していただいています。また常日頃からそのような話題もご家族と十分に話し合うようにしています。	重度化に対する話し合いは入居契約時に家族に説明をして、了解をもらっています。終末期と医師が判断した時は家族、医師、看護師、事業所と一緒に介護計画を話し合い、支援しています。	今後、利用者の重度化が進み、事業所での看取りの要望が予想されます。現在進めている職員の看取り研修を継続することも期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入居者が急変した際のマニュアルがフロアに設置されており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており、職員の対応能力も向上しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制が出来ます。また、運営推進会議で話し合い、地域との協力体制にも繋がっています。	年2回、春と秋に避難訓練を実施しています。1回は消防署の立ち会いで行っています。河川洪水対策の訓練も実施しています。今年は、大学の高齢者施設における避難の事例研究として協力をしています。避難場所、備蓄は近隣の同法人の施設、地域と連携して進めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の尊厳を尊重し、居室に入る際は必ずノックをし、トイレに入った際は必ずドアを閉めるといったプライバシーにも配慮をし、常に言葉遣いや態度に気をつけて対応を行っています。	入職時に経験によって必要な研修をしています。入居者一人ひとりへの対応は、傍により、同じ目線でゆっくり声をかけるよう心配りをしています。トイレへの誘導にもそれとなく合図をして、自発的に行く気持ちの引き出しに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着替え時の洋服の選択、買い物時などの品物を買うか、必ず、自己決定をしていただく機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のその日ごとの生活ペースを尊重し、どのように過ごすか、入居者の意向に沿った対応を日々行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭・髪の手入れ、洋服の選択はご自身で行っていただき、よりよくおしゃれが出来るよう、必要時は声掛けを行うなどしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き・食器洗い・盛り付けなど入居者に手伝っていただいています。職員は、食事前には各料理の説明を行うなど食事が楽しみの1つとなるよう支援しています。	食材は業者による冷凍食材が中心で、状態に合わせ職員が調理しています。ご飯、みそ汁は職員が作っています。月1回は食事レクリエーションとして利用者の好みをもとに所内や外食会を実施しています。利用者と作る餃子パーティー、回転寿司などを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人に合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取できているかを常に把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行っています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリデントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の内容を個人記録に記入し、排泄の間隔が開いている方に対しては声掛けをしご本人の同意後、誘導を行っています。また排泄の際、ご自身で行える事は行なっていただいています。	個人別の排泄記録を見ながらトイレ誘導をしています。排泄がスムーズになるようパン食、ヨーグルトを多用しています。おなかの運動、口腔体操にも取り組んでいます。できるだけ「本人の行きたい気持ちを大切に」する取り組みを看護師と連携して支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取していただき、散歩や体操を通して運動を行う様にしています。便秘の方に関しては起床時に白湯を提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔が長くても3日以上開かないよう、入居者に入浴を勧める声掛けを行っています。入浴希望の有無を入浴予定時間の変更など、臨機応変な対応が行えています。また、体調不良など入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。	浴室は2階3階とも一般の家庭浴槽です。入浴はそれぞれの利用者の好みの温度に合わせ、毎回湯を交換して清潔さを保っています。入浴前には浴室を温め、入浴意欲が高まるよう心配りをしています。職員は入居者と1対1になり、思いを聞ける場として大切にしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の希望に応じて、居室でお休みになるほか、フロアのソファに座って寛いでいただいています。散歩やレクリエーションなどの実施により、日中は活動的に過ごし、夜間は安眠出来る環境づくりができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制による誤薬防止チェックを行っているほか、フロアに処方箋リストを設置し、いつでも職員が薬の内容を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物畳みや食器洗い、掃除など、多くの日常家事をみなさんと楽しみながら行っていただいています。また外出レクリエーションや散歩を通して入居者に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・買い物は日課としています。月1.2回程度外出行事を企画し、実行しています。普段なかなか行けない場所へ行き、入居者とご家族から喜ばれています。	フロアごと交代で毎日散歩をしています。月1回、職員中心の行事企画委員会の計画により、車椅子のまま乗れる車両も含め、2台を借用して遠方（川崎大師、港北モール）へ出掛けています。家族の参加もあり、生き甲斐創出に繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際や外出時際、職員が代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週一回、玄関やフロアに花を活け、季節感をだしています。入居者が作成した塗り絵や折り紙の花などを飾り付けしご本人が達成感を得られるよう環境整備を行っています。	事業所全体を季節の花々で飾っています。職員の中に「花守り」がいて、利用者と一緒に毎週花屋から買い求めた花をフロアや居室に生けています。壁には自作の折り紙やぬり絵、習字が貼られ楽しい空間を演出しています。テーブル、ソファの配置はゆっくりできる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者が自由に会話でき、お好きなきに居室に戻られたり、お休みになることが出来る等、入居者が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が使い慣れた者やご家族の写真を置き、入居者にとって居心地のよい、空間作りをしています。	ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けです。そのほかは自分の好みに合わせ準備をしています。掃き出しの広い窓があり、明るい居室となっています。入口にはそれぞれネームプレートと折り紙が貼られ、室内壁にも思い思いの写真やぬり絵などが貼ってあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の生活の妨げとならないかを念頭におき環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをさせていただく等、出来るだけ自立した生活が送れる様になっています。		

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	3階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『生き活きと暮らそう!』を理念とし、入居者の方がらしく笑顔で安心して生活できるよう勤めています。また職員も楽しく仕事をするよう心がけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の納涼祭や例大祭への参加をしている他、入居者が散歩中、近隣の方々と挨拶をすることにより顔なじみになりお声をかけていただくこともあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者と近隣の方々との挨拶や近所への買い物時に会話を通じて、認知症の方への理解をしていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容・ご意見等を、フロア会議で施設長より報告し、施設内のサービス向上に繋がるよう話し合いをし、実行しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受けたり、入居者の認定調査、入居人数の現状確認など、様々な面において連携を取る等して協力関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止についての研修を行い、どのような行為が拘束にあたるのかを学び、日ごろのケアに活かしています。フロアの扉は防犯上の理由から、施錠していますが、外出希望者についてはいつでも開けるようにしています。また職員へは施錠が拘束にあたることも周知し、理解したうえで、行っていることも研修で伝えています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関する研修を行い、どのような行為が虐待にあたるかを学んでいます。入居者に対する言葉遣い、態度に気をつけ、常に入居者への対応について会議や日々の申し送り等で話し合い、改善できる体制をとっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、その際に得た資料や情報を職員間で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族からの契約に関する質問については、入居者やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、わかりやすく説明し理解・納得していただいでご利用を開始していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時にご家族様との意見交換を行い、ご意見・ご要望について、実現に向けた話し合いを職員間で行い、運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議やリーダー会議、各委員会において、職員同士が互いに意見を出し合い、集約し実践することで、運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長・フロアリーダーが職員と面談を行い、職員の意見を聞き、必要時は就業環境の面において改善を行い、職員が意欲的に就労出来る様にしている他、各種研修を行うことで自身を持って業務に当たることが出来ています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修や講習会の案内を休憩室に掲示する他、研修委員より職員に対し、研修参加を促すなど、研修を受ける機会を確保しています。また、法人としては、新人研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と、相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上ができるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時アセスメント・ケアプランを把握し、会話を重ね、安心して過ごしていただけるようにし、入居者のご要望がある場合、可能な限り、実現できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での入居者の生活の仕方や趣味をお聞きするなどし、不安・ご要望を聞くなど、会話を重ねるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者が現在必要としている支援内容をアセスメントや生活上のご様子から見極め、必要時はサービス内容の変更を話し合い、実践しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内で入居者には家事に参加していただき、入居者と職員が相互に協力し合う関係が作れています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に入居者の日々のご様子やご要望などを少しでも時間を作り、話をしています。行事の写真などを月一度後家族様に郵送しご家族の繋がりを大切にさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者が行ってみたい場所などは外出行事で出かけたりしています。また近所のお店やお散歩コースも馴染みの場所となっています。ご家族やお友達などの面会も大事な時間としてゆっくり過ごしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者の多くが参加出来る内容の会話を行うほか、家事のお手伝いを通して、入居者同士が協力して支えあい・助け合って生活できるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への見舞いや、退去後も退去先へ面会に行くほか、ご家族様に連絡を取り、近状報告を聞くなど、ご本人との間に作られた関係が途切れないようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活上の以降を聞くようにしています。その意向を職員間で話し合い、入居者が満足できるよう検討し実践しています。入居者の表現が困難な場合、表情から汲み取るよう努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前にご本人の情報を得ているほか、アセスメント表を熟読し、これまでの生活歴を把握しています。生活上の様子は個人記録に記入し、サービス開始時から現在までの経過がわかるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の日々のご様子を個人記録に残し、必要時は申し送りや朝礼時に話し、フロア職員や施設長、医療連携看護師が把握できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロア会議や利用者に対するモニタリングの際、入居者の個人ケアに感ずる情報を共有し、意見交換をした上で現状に即した介護計画を作成し、支援を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者のADLの変化などにより、他サービスの利用が必要な際はカンファレンスを行い、ご本人の状態に適した対応を行う様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	森林公園やバラ園といった地域の施設を利用する他、近所男祭りへの参加、ご近所の方との会話、買い物など楽しんで生活を送る事が出来ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月に2回の内科往診の他、特変がある場合、連絡を取り、受診に繋がるといった連携を取り適切な医療を受けられる体制が構築されています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	申し送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。必要時はいつでも連絡が取り合え、入居者に対する適切な受診・看護に繋がれるようになっていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入院中は入居者への面会を頻繁に行い、病院関係者やご家族とも相談しながら、早期の退院に備えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化した場合・或いは終末期に向けた方針については入所前の段階でご家族に説明し、了承いただいています。また常日頃からそのような話題もご家族と十分に話し合うようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者が急変した際のマニュアルがフロアに設置されており、それに基づいた対応が出来ます。また急変時の対応に関する研修も行われており、職員の対応能力も向上しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回、避難訓練を行い災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。近隣に同じ法人の施設があり、協力体制が出来ます。また、運営推進会議で話し合い、地域との協力体制にも繋げています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	一人一人の尊厳を尊重し、居室に入る際は必ずノックをし、トイレに入った際は必ずドアを閉めるといったプライバシーにも配慮をし、常に言葉遣いや態度に気をつけて対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	着替え時の洋服の選択、買い物時にどの品物を買うか、必ず、自己決定をしていただく機会を作っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者のその日ごとの生活ペースを尊重し、どのように過ごすか、入居者の意向に沿った対応を日々行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	髭・髪の手入れ、洋服の選択はご自身で行っていただき、よりよくおしゃれが出来るよう、必要時は声掛けを行うなどしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	テーブル拭き・食器洗い・盛り付けなど入居者に手伝っていただいています。 職員は、食事前には各料理の説明を行うなど食事が楽しみの1つとなるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人に合った調理法で提供している。食事・水分摂取量を個人記録に残し、どの程度摂取できているかを常に把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行っています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリデントを使用し除菌しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身で行える方は行っていただき、支援が必要な方は職員が付き添い、介助して口腔ケアを行っています。義歯を装着されている方は夜間帯にポリデントを使用し除菌しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中のみでも残存機能を低下させない為布パンツを使用等を行っている。排泄の内容を個人記録に記入し、間隔があいている方には声掛けを行うなど一人一人の状態に合わせて対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を十分に摂取していただき、散歩や体操を通して運動を行うようにしています。週3回ヨーグルトの日を作り便秘予防に繋がっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔が長くても3日以上開かないよう、入居者に入浴を勧める声掛けを行っています。入浴希望の有無を入浴予定時間の変更など、臨機応変な対応が行えています。また、体調不良など入浴が困難な場合は足浴・清拭で対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の希望に応じて、居室でお休みになるほか、フロアのソファに座って寛いでいただいています。散歩やレクリエーションなどの実施により、日中は活動的に過ごし、夜間は安眠出来る環境づくりが出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制による誤薬防止チェックを行っているほか、フロアに処方箋リストを設置し、いつでも職員が薬の内容を確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物畳みや食器洗い、掃除など、多くの日常家事をみなさんと楽しみながら行っていただいています。また外出レクリエーションや散歩を通して入居者に気分転換をしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩・買い物は日課としています。月1.2回程度外出行事を企画し、実行しています。普段なかなか行けない場所へ行き、入居者とご家族から喜ばれています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際や外出時際、職員が代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者のご要望がある際はご家族への電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週一回、玄関やフロアに花を活け、季節感をだしています。入居者が作成した塗り絵や折り紙の花などを飾り付けしご本人が達成感を得られるよう環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者が自由に会話でき、お好きなききに居室に戻られたり、お休みになることが出来る等、入居者が過ごしやすい環境作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が使い慣れた者やご家族の写真を置き、入居者にとって居心地のよい、空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の生活の妨げとならないかを念頭におき環境整備を考えています。また、家事のお手伝いをさせていただく等、出来るだけ自立した生活が送れる様になっています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 花物語たかつ新館

作成日： 平成 30年 2月 22日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在、重度化や看取りに関する研修をおこなっていますが今後すぐに対応できる準備が整っていないのが現状です。	重度化、看取りに関しての研修、外部研修への参加を積極的に増やし対応できるようにしたい。	定期的な施設内研修に加え外部研修にも積極的に職員に参加してもらう。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月